



5 万分の 1 地質図幅の新刊

茶 内 原 野

CHANAIGENYA

5 万分の 1 地質図幅 地域地質研究報告



著 者 嵯峨山積・松下勝秀・山岸宏光
 発 行 工業技術院 地質調査所
 取 扱 先 東京地学協会 (03)261-0809 262-1401
 そのほか全国主要書店
 販売価格 2,390円

茶内原野図幅地域は北海道東部 根釧原野のほぼ中央に位置する。地形的には海拔 60~100m の平坦面をなす丘陵地が面積の大半を占め 自衛隊矢白別演習場 パイロットフォーレスト及び酪農用草地として利用されている。

本地域の地質は下位から釧路層群別寒辺牛川層 屈斜路軽石流堆積物 中西別層 河岸段丘堆積物 湿原堆積物及び氾濫原堆積物である。このほか 本地域には降下火砕堆積物が厚く堆積しており 下位から茶内火山灰層 新期火山灰層に区分される。

別寒辺牛川層は本地域の南西部で厚く分布する第四紀前~中期初頭の地層で 主に軽石質砂礫からなる。

貝化石 花粉化石及び珪藻化石を産し 東北東~西西南の軸を持つ緩い向斜構造を呈する。屈斜路軽石流堆積物は火山灰及び軽石からなる火砕流堆積物で 本地域の北西部に分布し 含まれる炭化木片の¹⁴C年代は>40,000y. B. P.である。中西別層は本地域の北西部に分布する更新世後期の地層で 主に砂礫及びシルトからなり花粉化石及び珪藻化石を産する。河岸段丘堆積物は現河床面との比高が15mと8~10mの2段の面をなす。

茶内火山灰層は更新世後期末に降灰した降下火砕堆積物である。そのなかの特徴的な幾つかの火山灰層は本地域外にも広く追跡することができ 噴出源は北西方向に求められる。新期火山灰層は完新世における降下火砕堆積物で 主に摩周系統の火山灰層である。

本図幅では以上の地質の研究成果のほか 図幅地域周辺の地層との対比も行っている。一つはこれまで釧路層群の一部に対比されてきた風蓮湖層が同層群の上位に位置する異なる地層である事 他の一つは貝化石 花粉



化石及び珪藻化石の資料から 鮮新~更新世の地層が茶内原野周辺に存在する事を明らかにしている。

茶内原野図幅は根釧原野における最後の5万分の1地質図幅であり 既に出版されている周辺の地質図幅と比べて貝化石 花粉化石 珪藻化石及び古地磁気など詳細でかつ豊富な基礎データが盛り込まれている。またこれまで断片的記載にとどまっていた先摩周系統の火山灰層(茶内火山灰層)についても広域的な対比がなされている。

根釧原野における今後の調査研究に本図幅は十分役立つものと思われる。

地 質 ニ ュ ー ス	第 370 号	6 月 号
	定 価 ￥ 600	千 実 費
昭和60年6月1日	発 行	
編 集	工業技術院地質調査所	
発 行 人	林 久 雄	
発 行 所	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	〒 102	
	Tel. (03)265-0951(代表)	
	振替口座 東京1-32466	
総発売元	株式会社 実業公報社	
	出版事業部	